

共同利用施設の再編集約・合理化に関する事例【園芸作物、北陸農政局】

新潟県 JAえちご上越（新基本計画実装・農業構造転換支援事業：R7～R8）

- JAえちご上越管内（受益地区：上越市、妙高市）に所有する2カ所のえだまめ集出荷貯蔵施設の一次選別機能を再編し、園芸拠点施設に集約する。
- 生産面積拡大及びコールドチェーン化に対応する能力・規模の選別調製及び包装施設を導入し、品質の確保や出荷量の拡大を図る。

現状・課題並びに再編集約等の内容

【産地の現状・課題】

- 当産地では、水田でも栽培可能な収益性の高い園芸品目としてえだまめ栽培を推奨しているが、えだまめ収穫コンバイン等の機械化一貫体系が進みえだまめの急激な面積拡大により、既存の集出荷調製施設の処理能力が上限に達する状況となっていた。
- 一次選別段階での冷却設備が無く、実需者のニーズであるコールドチェーンへの対応ができていない課題があった。

【再編集約の内容】

- 管内2集出荷貯蔵施設の一次選別機能を再編し、園芸拠点施設に集約する。
- 今後のえだまめ生産拡大に対応し、一次選別（連続洗浄機の増設、冷却水装置）、二次選別（色彩選別機的能力増強、計量・包装機）を導入する。

再編集約前

①園芸拠点施設
(一次選別→二次選別)

②旭野施設
(一次選別)

再編集約後

①園芸拠点施設
(一次選別→二次選別)

一次：洗浄機増設・チラー装置導入
二次：色彩選別機等能力増強

旭野施設
(荷受のみ)

再編集約・合理化等で期待される効果

- 一次・二次選別機能を増強し、荷受能力を向上させることで、処理能力の上限を解消し、今後のえだまめ栽培の更なる面積拡大への対応が可能となる。
- 一次・二次選別機能増強を契機とし、併せてマルチ栽培や移植栽培の拡大、品種構成、播種・移植時期の調整を推進することで、JAえちご上越の掲げる目標収量（移植450Kg/10a、直播280kg/10a）の実現及び所得の増加が見込まれる。
- 産地全体の集出荷調整体制の見直し及び冷却水装置による低温水での洗浄作業が導入されることで、収穫から選別・出荷までの時間がより短縮し、荷受けから出荷までのコールドチェーン体制が確立され、品質の向上が期待できる。



【水田でのえだまめほ場】



【えだまめコンバイン】



【えだまめの調製作業】

他産地へのメッセージ

- 以前より、えだまめの生産拡大に対応した施設整備について検討してきたところであるが、本事業が産地の方向性を固める一つの契機となった。検討には多くの時間を要することになると考えるが、①生産者の栽培意向を取り入れ、早期に検討を始めること、②期日を定め結論を出すことが重要であるとする。